

資産運用レポート：個人投資家の鏡

1 はじめに

前回の資産運用レポートでは、明治時代の有力華族だった旧岩国藩主吉川家（きっかわけ）の株式投資を取り上げました。

吉川家は当時のインフラであり、持続的な成長を見込めた鉄道株、銀行株などを保有することで、資産を大幅に増やしました。

資本主義という枠組みの中で上手くやるには、吉川家のような資本家を見習うことです。問題は、私たち庶民に同等の振る舞いができるかどうかでしょう。

資金量で雲泥の差があり、得られる情報量も違い、その気になれば凄腕の投資アドバイザーを雇える彼らとは、住んでいる世界が違い過ぎます。

もっと身近に、お手本にしたい個人投資家はいないものか・・・。

そう思い、色々と調べてみたところ、海の向こうでお手本にしたい「一見、ごく普通の人」がふたり見つかりました。さすが投資大国アメリカです。

今回の資産運用レポートでは、個人投資家の鏡というべき人物を紹介します。

2 アンネ・シャイバー

ひとりめはアンネ・シャイバーです。1995年に101歳で天に召されました。莫大な遺産を奨学金として寄付したため、名前が残りました。

彼女はニューヨークで生まれ、幼い頃に父親と死別し、母親に育てられます。10代の頃から生活費を稼ぐために働き、苦学の上でロースクールを卒業した後、IRS（米国国税庁）の税務調査官として働きます。生涯独身でした。

1944年に退職後、5000ドルを元手に株式投資を再開します。IRSでのキャリアを通じて、米国で金持ちになる確実な方法は株式投資であることを知っていたからです。かつて親族の株式ブローカーに任せて失敗したため、今後は自分でやりました。

それから50年にわたって投資を続け、最終的に資産を2215万ドル（22億円）まで増やしたのです。